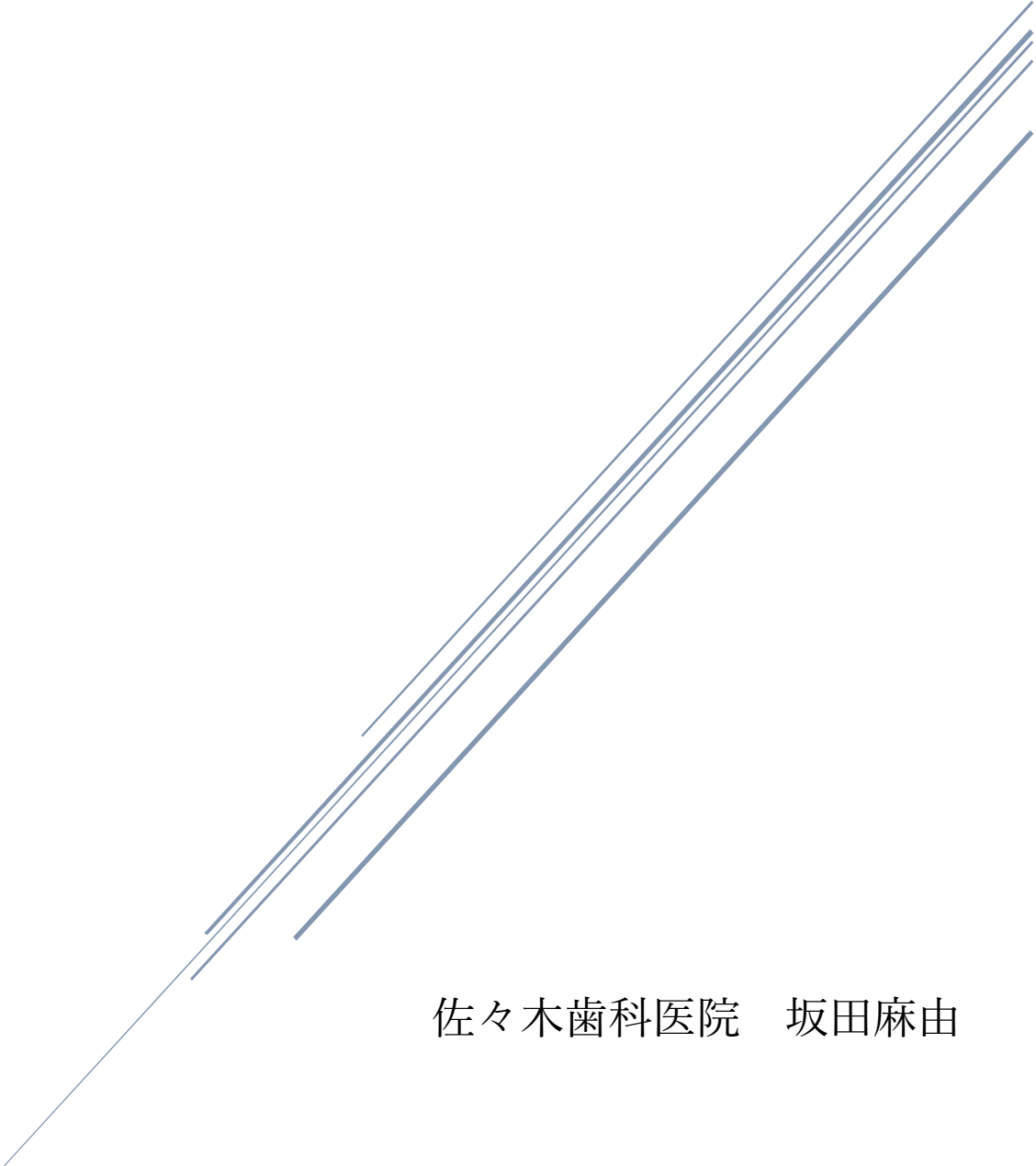


# TC としての未来



佐々木歯科医院 坂田麻由

## ① TCレギュラーコースを受講して

TC=説明をする人。

このセミナーを受講する前、TCに関して何も知識がない私はそう思っていた。

DAとして待合室の様子、診療室の様子、どちらも確認することが出来る中で、あのチェアでDrがしている治療の説明を私ができれば…DHがしている補綴の説明を私ができれば…待っている患者様をすぐご案内することができるのに…そんな事を思うことが日々何度もあった。そんな時、Drから、医院を発展させる為にそれぞれ自分の目標をたててほしいと院内ミーティングでお話があった。私は真っ先に、患者様に説明ができるようになりたい！その思いを伝えた。そしてDrからこのTCマスターカレッジのスクールがあることを教えて頂いた。TC=説明の人という考えの私が、なんとなく想像していた講義とはかけ離れた内容で、私がしたいこと、なりたいものはこれだ！と思えた1回目の講義の衝撃は今でも忘れられない。

鈴木先生のこれまでの人生のお話や、海外でTCとして活躍されているJulieさんからのメッセージを拝見し、今まで自分は、資格がないから、まだ子供が小さくて自分の時間がないから、そんなことを理由に自分の可能性に蓋をして、学ぶこと、挑戦することから逃げていたのだと痛感させられた。

今までの私は、日々の業務、与えられた仕事をこなし1日が終わる、そんな毎日だった。だが、受講した翌日から仕事への意識が変わった。DHが問診でどんなことを聞いているのか、Drはどんな治療説明をしているのか、自分の業務の合間に時間を見つけ、その様子を聞きに行くようになった。Drのアシストにつき、どんな治療をしているのか自分の目で確認した。パノラマやデンタルを見て、この患者様はどの部位をどのように治療していくのだろうと考えるようになった。毎回の講義が刺激的で、受講の度に、もっと学びたい、学んだことを活かしてTCの役割を医院で確立し、TCとして医院と患者様の為に貢献していきたい。そう思うようになった。

月に1回とはいえ、石川から東京に半年間通うことは私にとって大きな決断だった。

やるなら今じゃない？と背中を押してくれた夫、ママ明日東京の日？頑張って！と応援してくれた息子達、ロールプレイの練習に付き合ってくれた医院のスタッフ、学ぶきっかけを与えてくださり、支援して下さったDr。私一人では乗り越えられない半年間だった。本当に感謝している。そして、同じ目標に向かって一緒に突き進んでいく、こんなに素晴らしい仲間にならないうちに大人になってから出会えるなんて思っていな

かった。この半年間での学び、出会いは私にとってかけがえのないものである。他では無い、このスクールを受講してよかったと心の底から思う。

## ② 日本の歯科医療における TC の役割

日本では『歯医者は何か症状がでてから行く所』そう認識している方がほとんどだと思う。実際に医院に来られる患者様もそう認識している方が多い。なぜそのような方が多いのか。それは、それを繰り返すとどうになってしまうのかを教えてくれる人に今まで出会わなかったからだ。欧米では TC の存在は当たり前だと学んだ。受講の回数を重ねる度に、なぜ日本には TC を導入している医院が少ないのか疑問に思うほど、TC の重要性を感じた。日本では保険診療があることがメリットではあるが、その分治療を繰り返し、最終的に歯を失うロススパイラルが起ること、治療が完了することが大切なのではなく、その後の予防の繰り返しが重要であることを学び、その事を患者様に伝えることは患者様の健康、未来を守っていくために必ず必要であり、義務であると強く感じた。大切なのは自費治療がいかにもいいものなのかを伝えることではなく、患者様自身が自分の口腔内の現状を知り、治療の選択肢があること、それぞれの治療のメリット、デメリットを十分に理解し、患者様自身で治療の決定をしてもらえるように患者教育すること。それが TC の役割なのだ。もちろんただ説明するのではなく、患者様の疑問や不安を聞き、寄り添い、一緒に頑張っていく、それができるのは日々の診療業務に追われている Dr や DH ではなく TC なのである。また、患者様の為だけではなく、Dr や DH が業務に専念できるように双方の間に立ち、架け橋になることも TC の役割だ。

TC は、患者自身が受け身であり、予防意識の低い日本の歯科医療の現状を必ず変えていけると思う。

## ③ スクールでの学びを医院でどう活かせるか？

私が働く医院では TC は存在しない。カウンセリングルームを設置し、TC を導入し、仕組み作りから始めなければならない。症例をまとめたり、説明用の補綴物を用意したり、やらなくてはならないことは山のようにある。チェアサイドで少し問診をしたことはあっても、しっかりと時間をとり、1対1でカウンセリングをした経験は私には無い。今後挑戦していくことになる。どれだけ一生懸命準備をしても、最初は自分が思い描いている通りにいかないことのほうが多いと思う。それでも私は決して諦めない。スタ

ートからゴールまで声を掛けながら一緒に歩み、ゴールを迎えた喜びで患者様が笑顔になる。その瞬間に立ち会い喜びを分かち合いたい。もちろん治療のゴールが終わりではない。その後の予防で来院される患者様がいつまでも健康で笑顔でいられるようにサポートしていく。それができるのは Dr や他のスタッフではない。このスクールで、目指すべき TC とは何か、その存在の意義を学んだ私にしかできないことである。

私がこのスクールに出会い、衝撃を受け、感動したように、私も患者様に、この医院に来てよかった、あなたと出会えてよかったと運命を感じてもらえるような TC になりたい。その為には常に学ぶ姿勢を忘れず、行動し、向上し続けなければならない。

「過去と他人は変えられない。変えられるのは自分と未来。」スクールで学んだこの言葉を胸に、TC としての 1 歩を踏み出し、着実に歩んでいきたい。

(以上 2391 文字)